

札幌市内は雪融けが順調に進み、ふきのとうや福寿草も咲き始めました。山のふもととはどんな状況かと三角山宮の森登山口をのぞいてみたところ、まだ雪景色でした。(登山道は、毎日登られる方により踏み固められ、冬でも登ることができます)

ですが、春が近づく景色はありました。

”根開き (ねひらき)”です。

- “根開き”とは、主に雪融けの時期に見られる現象で、樹木の根元の雪が周りより早くとけるため、そのように呼ばれます。春の訪れを知らせる雪国地方の季語でもあります。
- ねあき (根開く)、ゆきねびらき (雪根開き) とも呼ばれます。

“根開き”は、私には毎年雪融け期の見慣れた風景となっており、どのような理由で起きているのか、実は考えたことがありませんでした。少し前にNHK札幌放送の住友静恵気象予報士さんが朝の番組でこの“根開き”についてお話しされていたことをきっかけに、インターネットで調べてみました。

通説や仮説がいくつかあるものの、実はまだ科学的に解明されていないそうです。いくつかの説をご紹介します。

- ・ 春が近づくと樹木が根から水を吸い上げることで、樹木の温度が上がり、外界との温度差で根に近い雪がとけるという説
 - ・ 樹木だけではなく、枯れ木や電信柱でも同じ現象が起きることから、
周り (雪の白) より色が濃い物が太陽光を吸収して温まり、その熱が雪をとかすため。または、雪で反射した太陽光が樹木や物体に当たり (輻射熱：ふくしゃねつ)、その熱が周りの雪をとかすため。
 - ・ 樹木や電柱など垂直構造の物体は、上から雪面のある下に向かって気流が発生するため気流が融雪を早める、という理由。
- ※この現象は、春だけではなく厳冬期の冬に山岳でも見られます。